

今回は、「入社 1 年目の教科書」という本からです

仕事において大切な 3 つの原則…その 3

よく「つまらない仕事」という言い方を耳にします。僕は、世の中の仕事につまらないものなどないと断言したい。単調な仕事だとしても、面白くする方法はいくらでもあるからです。例えば、会議の議事録で考えてみましょう。始めのうちは、議事録の作成を頼まれると「誰にでもできる（つまらない）仕事」と思うかもしれませんが。しかし、その仕事は何のためにやるのか。その意見と目的を知れば、様々な工夫ができるのです。会議の参加者の記憶に残すために使うのか。会議を受けて次に進むべきステップを検討するために使うのか。ディスカッションした内容から新たな提言を生み出すために使うのか。社長や役員に見せるなら、A4 版の紙一枚に簡素にまとめる必要があります。参加者の発言を証拠として残すなら、丁寧に書き込むことが求められます。目的や用途によって、議事録をまったく異なった姿になります。いまの僕ならば、疑問点、改善策などを載せるでしょう。追加で質問すべきポイント、調査が必要な点、提言を入れるなど、**自分なりの付加価値をつける**ことを意識します。そうすれば、議事録を書くという仕事も、つまらない仕事と感ずることはないと思います。イチロー選手は、毎日のように素振りをしているはずですが、イチロー選手ほどのスーパースターでも「素振りって短調でつまらない練習だよ」とは言わないでしょう。一般的にアスリートは気の遠くなるほどの単調な基礎練習を繰り返すものです。そうした練習を、単調でつまらないと嘆く一流アスリートを僕は知りません。音楽家も同様です。大学のときに所属したジャズサークルに天才サクソ奏者と常々感心していた 1 年生の後輩がいました。ある日、朝から晩まで一緒に部屋にいる機会がありました。彼は、黙々と基礎練習をやり続けていたのです。本当の天才は、誰よりも基本を練習するものです。その世界で成功した人は、皆同じことをいいます。経営コンサルタントの大前研一さんも、若いころは会社に残って過去のプロジェクトのデータベースを隅から隅まで読んだと聞いています。つまらない仕事の代名詞のように言われるコピー取りを頼まれたら、コピーしながら資料を読んでしまえばいいのです。読んでみると、ビックプロジェクトが動いている様子や、取引先の真の姿など、自分が担当していない案件の情報に触れることができるかもしれません。こんな仕事があるかどうかわかりませんが、「資料を全部書き写せ」と言われたとしても、僕は不満に思いません。「データをエクセルに入力せよ」もまたしかり。手を動かせば動かしただけ、面倒くさければ面倒くさいだけ、体や脳に負担がかかって強くなると思うからです。一見単調な仕事でも、足腰を鍛えるためには欠かせないものだと考えて臨んでください。**見方を変えることによって、あなたが向き合う仕事はまったく違うものとして見えてくるはず**です。

目的や用途によって議事録はどんな姿になりますか？

()

一般的にアスリートは何を繰り返しますか？

()

本当の天才は誰よりも何をしますか？

()

見方を変えると仕事はどんな風に見えますか？

()